

西洋建築史第3回

古代2ー古典の継承と消失

中島 智章

序.黄昏のローマ世界

●Pax Romanaの終焉

マルクス・アウレリウス帝の息子^{コモドゥス}Commodusの暴政と193年の内乱
セウエルス朝(^{セプティミウス・セウエルス}Septimius Severus, ^{カラカッラ}Caracalla, ^{ゲタ}Geta, ^{エラガバルス}Elagabalus, ^{アレクサンデル・セウエルス}Alexander Severus) 193-235

*セプティミウス・セウエルス凱旋門:コリント式のデタッチド・コラム
^{カルダリウム}カルダリウム ^{テピダリウム}テピダリウム ^{フリギダリウム}フリギダリウム
カラカラ帝の大浴場(Caldarium, Tepidarium, Frigidariumなどから成る)

●軍人皇帝時代

「世界の再建者」^{アウレリアヌス}Aurelianus・・・カエサルによる城壁撤去から300年、再び城壁を建設

●末期帝政時代: Dominatus(専制君主政)の時代 284～

^{ディオクレティアヌス}Diocletianusの帝国四分統治(293)・・・東西に正帝副帝

^{コンスタンティヌス}Constantinusの帝国再統一&遷都(330)

^{テオドシウス}Theodosius、帝国二分(395)→西ローマ帝国(～476)と東ローマ帝国(～1453)

*マクセンティウス帝のバシリカ:大規模な内部空間の実現
コンスタンティヌス凱旋門:セプティミウス・セウエルス凱旋門と同じデザイン

1.初期キリスト教建築

●コンスタンティヌス帝のいわゆるミラノ勅令(313)

→帝国統一(324)

→同帝洗礼(337)

→テオドシウス帝のキリスト教国教化=異教禁止令(391)

●「聖座」=「使徒座」の勃興(←聖ペテロの後継者たち)

→「皇帝のローマ」から「教皇のローマ」へ

^{ビザンティウム}
*Byzantium遷都(330)

ニケーア公会議(325)→アリウス派を退けアタナシウス派の教説が採られる→三位一体説(父と子と聖霊)へ

聖ヒエロニムス(『ウルガータ訳聖書』)、聖アンブロシウス(ミラノ司教)、聖アウグスティヌス(『告白録』、『神の国』)→413-426)

●コンスタンティヌス帝による聖堂建設

聖ペトルス(ペテロ)大聖堂(現存せず)

→五廊式のバシリカ式教会堂、Atrium、Narthex、高窓

バシリカ・サルヴァトーリス(救世主大聖堂)

→当初は使徒座聖堂で、その後、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラーノ大聖堂と改称される

→現在でもローマ司教座聖堂

サン・パオロ・フオーリ・レ・ムーラ大聖堂

●サン・ロレンツォ・マッジョーレ聖堂(ミラノ)

→四方にアプスがある独特の集中式平面、付属礼拝堂に創建当初のモザイク

サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂(ローマ)

→三廊式、身廊+側廊×2、アプス、イオニア式列柱、小屋組→ローマの四大聖堂

2.古代ローマ建築のコンヴァージョン

- サンクタ・マリア・アド・マルティーレス教会堂(ローマ)
 - ←パンテオン(ローマ)が7世紀に教会へ転用されている→古代神殿の教会への転用例は多い
 - *アントニヌス・ピウスとファウスティナーの神殿→サン・ロレンツォ・イン・ミランダ(1602)
- サンタンジェロ(ローマ)
 - ←ハドリアヌス廟の頂上に礼拝堂(聖グレゴリウス←大天使ミカエルが剣を鞘に収める幻を視た)
- 廃墟のローマ
 - すでにハドリアヌス帝治下に帝都の人口は半減→アウレリアヌスの城壁 コンスタンティウス *Constantius IIのローマ訪問(357)

3.ラヴェンナの建築

- 西ローマ皇帝ホノリウスによるミラノからラヴェンナへの遷都(404)
 - 西ゴート族のアラリクス王によるローマ掠奪(410)
- 後継皇帝ヴァレンティニアヌス3世と母后ガッラ・プラキディア治下の建設活動
 - サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ教会堂
 - ガッラ・プラキディア霊廟
- 傭兵隊長オドアケルによるロムルス・アウグストゥルス帝廃位(476)
- 東ローマ皇帝ゼノンの後援を得た東ゴート族のテオドリクス王によるオドアケル討滅
 - 「イタリア王」としてイタリア半島を支配(東ゴート王国の成立)
 - サンタポリナーレ・イン・クラッセ大聖堂
 - サンタポリナーレ・ヌオーヴォ大聖堂
 - アリウス派洗礼堂とアタナシウス派洗礼堂
 - テオドリクス王廟

4.ビザンツ建築

- 千年の都Constantinopolisコンスタンティノポリス・・・「異教の都」ローマに対して「キリスト教の都」を指向
 - かつての「ローマ帝国」復興を達成したJustinianusユスティニアヌス大帝(527-565)だが・・・→その後、徐々に東方の一地方勢力に・・・
 - ローマ司教のカトリック教会との対立(451～)・・・聖像禁止令(726)、相互破門(1054)
- ユスティニアヌス大帝による聖堂建設
 - ハギア・ソフィア大聖堂
 - 煉瓦造、クーポラ(ドーム)架構+pendentive→古代建築最後の輝き
 - サン・ヴィターレ大聖堂(ラヴェンナ)
 - 大理石、斑紋岩、金色のクーポラ、モザイク、籠彫の柱頭、八角形
 - *集中式(ドーム・バシリカ、クロス・ドーム)
- ビザンツ帝国の「中世建築」
 - 8世紀以降、貴族層の個人的礼拝のための教会堂が中心に *クロス・イン・スクエア
- 西方ヨーロッパへの影響
 - カロルス大帝カール (Karl大帝、Charlemagne)シャルルマーニュのアーヘン宮廷礼拝堂
 - 東方的な集中式教会堂(中央に八角形クーポラ)
 - ヴェネツィア総督宮殿付サン・マルコ礼拝堂(現司教座聖堂)
 - クーポラ架構と金を基調としたモザイク装飾、ギリシア十字形